

9月3日(木)
～28日(月)1 階特別展示室
入場無料陶芸家・北一明作品展
— 反戦・反核の芸術家 —主催／非核平和都市宣言を
さらにすすめる伊那市民の会
共催／伊那市創造館

北一明(きた・かずあき 1934-2012)

○長野県飯田市出身の陶芸家。

法政大学卒業後、様々な職を経て陶芸評論家として全国の窯を巡ったのち、38歳の頃から独学で作陶を開始。

東京都中野区に窯を築き、焼き物の限界を自ら試す極めて実験的な姿勢で制作に没頭した。「坏土(陶磁器を作るのに用いる土)がどこまで耐えられるか」を追求する研究熱心さから、窯を爆裂させようという大胆な試みも行い、その中で生まれた「自然灰玉緑光彩釉」や油滴天目・耀変天目のメカニズム解明など、従来の陶芸の枠を超えた独自の世界を築き上げた。



抽象的で造形的な魅力に富んだ作品群は、国内外の愛好家・研究者から極めて高い評価を受け、1990年に上海で開催された個展が大盛況を収めた後、北氏は上海師範大学の顧問教授に就任。翌年、その芸術性と平和への思想を中国国内で研究・顕彰するために、同大学内に「北一明学研究センター」が公式に設立された。また、アメリカ・ハリスパーク市名誉市民などの栄誉を受けた。

広島・長崎の被爆土やアウシュビッツの土を用いた作品を通じて、戦争と核の悲惨さを静かに訴え、平和への強い願いを込めたことでも知られる。こうした活動によりノーベル平和賞候補にも推された。

世間的に広く知られることは多くはなかったが、陶芸の技術的・芸術的深みを求める人々の間で静かな熱狂的支持を集め、「伝統美への反逆」とも評される独自の境地を生涯追求し続けた。

八十二文化財団
文学講座宗良親王の生涯と和歌
— 上伊那の古典説話、附：検校豊平の鷹狩 —主催／八十二文化財団
共催／伊那市教育委員会令和8年10月22日(木) 午後1時30分
伊那市創造館3階講堂 ～3時30分講師／にし かずお
信州大学教育学部教授(教育学部長)受講料
八十二文化財団友の会
会員 500円
一般 1,000円
申込みは八十二文化財団の
ホームページから。
定員/40人

<講師からのメッセージ>

宗良親王(1311-1385)は歌人としても知られた鎌倉時代から南北朝時代に活躍した人物です。武士としての活躍も見られ、彼の称号には「信濃の宮」があります。彼は北陸の各地を遍歴する中で興国5(1344)年に信濃国伊那郡の香坂氏に招かれて大河原(現在の大鹿村)に入ります。その後約30年にわたって大河原を活動拠点と定めたことから、先の称号があります。そうした大河原の生活を、彼が詠んだ和歌や歴史資料からたどります。また、検校豊平の鷹狩についても触れたいと思います。

問い合わせ先／八十二文化財団 026-224-0511 担当／杉本 催しコード／28

八十二文化財団
ホームページ

伊那市創造館マスコットキャラクター

伊那市創造館 INA-CITY SOUZOU-KAN

〒396-0025 伊那市荒井 3520番地
TEL:0265-72-6220 Fax:0265-74-6829
Mail:szk@inacity.jp※ お車でお越しの方は、「いなっせ駐車場」をご利用の上、
駐車券を創造館1階事務室までお持ちください。

9月

休館日
1日(火)、8日(火)、15日(火)
22日(火・祝)、24日(木)、29日(火)開館時間
午前10時～午後8時(月水木金・学習室)
午前10時～午後5時(土日・学習室)
午前10時～午後5時(展示室)
※展示室の最終入場は午後4時45分です。